

真の権威は人の顔色を窺うまい マタイ21:23~32 / 李正雨師

牧師によってみんな考え方が違うと思いますが、私は、牧師の第一業務は説教だと思います。そして私は、その第一業務、説教が一番難しくて怖いです。それで、説教原稿を書く前に、助けを求めようと思って、権威ある学者たちのコメントや説教集を参考にしています。普段、与えられた聖書の箇所を黙想してから、3つ又は4つくらいコメントや説教集などを参考に説教を準備します。私の考えだけではなく、権威ある人々のコメントを参考にした方が良く思うからです。もちろんコメントが気に入らない時もあります。しかし、彼らのコメントが私の説教をより豊かにするのは事実です。

皆様、「権威がある」とは何でしょうか。間違っていないということでしょうか。他のものよりもままだということでしょうか。権威があるからといって、間違っていなかったり、他のものよりも無条件に良いわけではないと思います。教会の神学だけでなく、多くの人文学や数学、科学、医学などの学問にも、権威があるという表現を使っています。芸術やスポーツも同じでしょう。すべての分野には、権威のあるものがあります。しかし、権威のあるものだといっても、時には間違っ、時にはいろいろな間違いと否定によって汚れることもあります。それで、多くの権威ある団体で決めたことが後代によって修正されたり、自分たちの失敗を認めたりすることもあります。権威があるというのが100%真実ではないということです。ただ多数の人々に信頼を受けていること、認められていることを、我々は権威あるものだと表しているだけだと思います。

今日の福音書には、この権威についての議論が書いてあります。今日の福音書でイエス様は、祭司長と長老たちからご自分の権威について尋ねられます。イエス様が神殿で起こされたことのためでした。イエス様は、この質問を受ける前に、神殿から商人たちを追い出されました。そして、盲人と足の不自由な人々を癒されました。これを見た子供たちは、イエス様を「ダビデの子」と称賛します。神殿の祭司長と律法学者たちは、これをイエス様に問いただしますが、イエス様は詩篇の言葉を引用され、賛美を歌わせた方は神様と言われ、ベタニヤに行かれます。ベタニヤに行かれてお泊りになったイエス様は、翌日、再び神殿に戻り、人々を教えられました。このようなことは、当時の神殿の権威ある人々の心を不快にしました。そこで祭司長と長老たちは、イエス様のところに来て、何の権威でこのようなことをしているのかと尋ねます。23節の言葉です。「イエスが神殿の境内に入って教えておられると、祭司長や民の長老たちが近寄って来て言った。『何の権威でこのようなことをしているのか。だれがその権威を与えたのか。』」

祭司長と長老たちは「権威」を立たせます。彼らが「権威」を立たせた理由は何でしょうか。聖書には書いてありませんが、彼らは自分たちが何を持っているかを知っていたと思います。イエス様にはなかったが、自分たちにあったもの。それは、身分とその身分につながっている権威でした。神殿での祭司長と律法学者と長老たちは、大きな力を持っていました。彼らは、神殿の商人を選ぶことができ、神殿で教えることもできました。彼らの言葉は大きな影響力があり、神殿のすべてのことを決めることができました。彼らの身分の権威がこのようなことを可能にしたのです。

ところが祭司長でもなく、律法学者でもなく、長老でもない人が、このような権威に挑戦しました。イエス様の身分は、大工の子でした。ラビでありましたが、生まれは良くありませんでした。そのような人が既存の神殿の働きに従わず、自分の思い通りにすべてのことを処理しました。まるで自分の家の仕事をするように、誰の許可も受けませんでした。これに対して祭司長と長老たちは、何の権威でこのようにしたかを尋ねたのです。自分たちは、身分の権威を持っていますが、イエス様は、何の権威も持っていないという意味でした。この言葉を聞かれたイエス様は、その「権威」について語られます。24~25節です。「イエスはお答えになった。『では、わたしも一つ尋ねる。それに答えるなら、わたしも、何の権威でこのようなことを』」

するのか、あなたたちに言おう。ヨハネの洗礼はどこからのものだったか。天からのものか、それとも、人からのものか。』」

イエス様は洗礼者ヨハネのことを語られます。当時の多くの人々は、洗礼者ヨハネを預言者だと思いました。それで彼から洗礼を受け、彼の教えを聞きました。しかし祭司長たちと律法学者たちは、そうしませんでした。マタイによる福音書3章によると、ファリサイ派の人々とサドカイ派の人々は、ヨハネから洗礼を受けるためにヨルダン川に行ったと書かれています。しかし、福音書のどんな箇所にも、祭司長と律法学者がヨハネから洗礼を受けたとは書いてありません。たぶん自分たちのカルテルを守るためであったのではないかと思います。神様の言葉よりも自分たちのものを守るために、彼らは頑張って洗礼者ヨハネのことを無視したのです。

そうした彼らに、イエス様はヨハネの洗礼について尋ねられます。ヨハネの洗礼がどこからのものかという質問は、権威に対する質問です。もし天からのものだと答えたら、祭司長と律法学者たちは、天の権威を無視したことになります。もし人からのものだと答えたら、群衆の権威を無視したことになります。どんな答えをしても、彼らの答えはつじつまの合わない言い訳になるのです。このようなことは、私たちの社会でも頻繁に起こっているものだと思います。自分の利益のために真実を隠そうとする人々、群衆の顔色をうかがっている人々に、私たちは福音書の祭司長と律法学者の姿を見つけることができます。そして、このような人々は、いつか困難な状況に陥るでしょう。真実ではなく、自分の利益に従って動いたからです。結局、祭司長と律法学者たちも、イエス様の質問に答えられませんでした。27節の言葉です。「そこで、彼らはイエスに、『分からない』と答えた。すると、イエスも言われた。『それなら、何の権威でこのようなことをするのか、わたしも言うまい。』」

権威を立ててイエス様をつまづかせようとした彼らは、むしろ自分自身によって困難な状況になりました。このような人々に、イエス様は権威に従うことが何なのかを教えてください。それが今日の福音書28節以下に書いてある「二人の息子のたとえ」です。イエス様のたとえでの長男は、最初は父の話を聞きませんでした。後で考え直してブドウ園に行きます。しかし、次男は「承知しました」と言いましたが、ブドウ園に行きませんでした。この話を終えられたイエス様は、祭司長と律法学者たちに「この二人のうち、どちらが父親の望み通りにしたか」と尋ねられます。彼らが「兄の方です」と言うと、イエス様はこう言われます。31～32節の言葉です。「はっきり言うておく。徴税人や娼婦たちが、あなたたちより先に神の国に入るだろう。なぜなら、ヨハネが来て義の道を示したのに、あなたたちは彼を信ぜず、徴税人や娼婦たちは信じたからだ。あなたたちはそれを見ても、後で考え直して彼を信じようとしなかった。」

自分のカルテルのために、自分の利益のために真実に従わない人は、神の国で先になることはできません。自分の言動によって、この世で無視されている人よりも後になるのです。そのため、私たちは真実の前で素直になるように努力しなければなりません。利益の誘惑があっても、又は真実によって恥を受けるとしても、真実に従わなければなりません。今日の福音書での祭司長と律法学者たちを御覧ください。自分の利益のために人々の顔色を窺っているこの世の権威ある人々を御覧ください。彼らのどんな姿にも、天のものを見つけることはできないのです。むしろ自分のことを反省し、真実に従っている人々から、天のものを見つけることができるようになるのです。イエス様は、今日の言葉を通して「あなたが言った権威は何だ。人々の顔色を窺うものか。それならば、その権威は間違っているものだ」と言われます。真の権威は人の顔色を窺いません。天から、真実に従うことから来るためです。あらゆる状況の中でも、真実に従っている皆様になりますように願います。それで、真の権威を持つ皆様になりますように。この世より、神の国で先になられる皆様になりますように、主の御名によって祈ります。アーメン